

## 2023年春闘回答 過去最高

### 物価上昇を背景に粘り強い交渉が後押し

7月6日現在、69の交渉単位の内、65単組が賃上げに取り組み、64単組で妥結・決定に至っている。

(以降カッコ内は昨年最終との比較)

妥結の内訳として49単組(31単組)では、賃金構造維持分に加えて、改善分の回答があった。一方で、取り組みの段階で2単組(3単組)が要求を断念している。

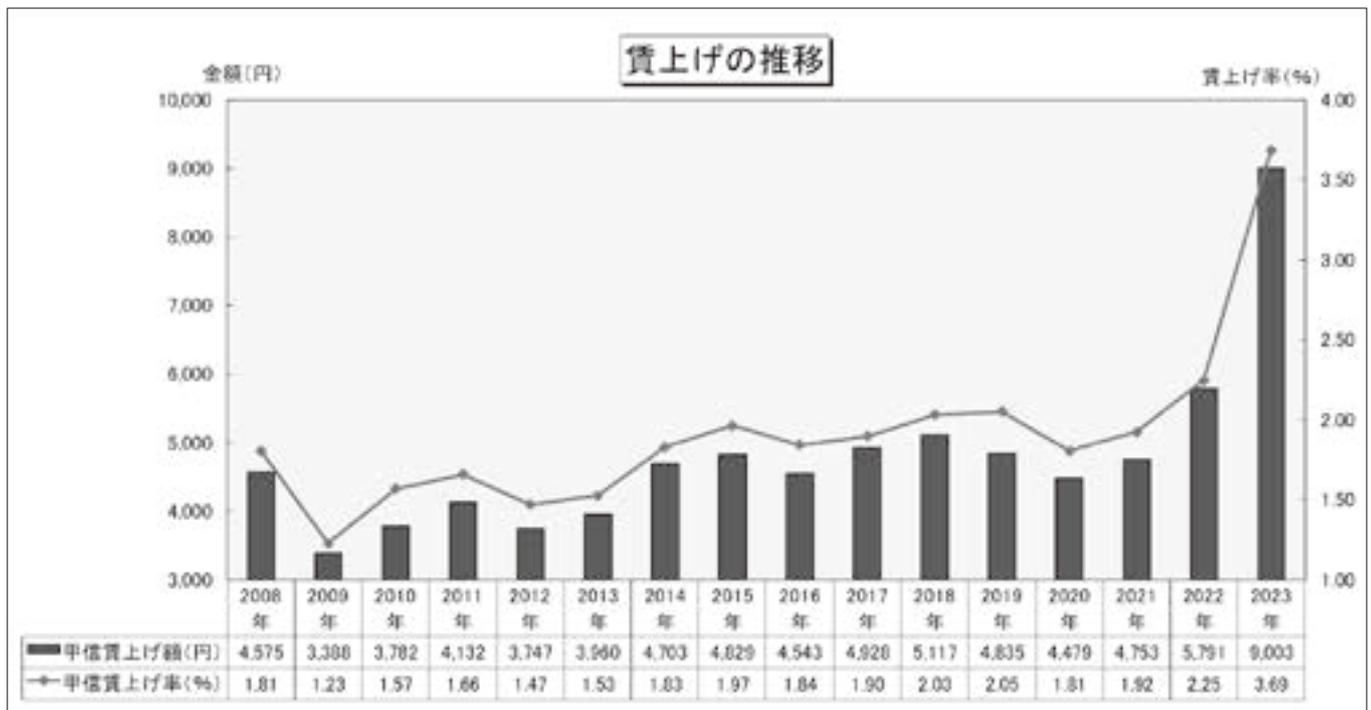
回答・妥結の平均額は9,003円(+3,212円)であり、改善分は5,444円(+2,915円)と、昨年最終実績を大きく上回り、過去最高となった。物価上昇を

### 一時金交渉は今後の状況に注視

背景とした賃金交渉に慣れていないことから労使の考え方に開きがあったが、賃上げに対する組合員の期待の高まりを受けて粘り強い交渉を行なったことが結果を後押しした。一方で人材流出防止の観点から世間動向を意識した会社側の判断があったものと推察される。

また夏季一時金では、妥結・決定に至っているのは44単組である。平均妥結額は現時点で昨年とほぼ同水準となっているものの、今後の状況について注視していく必要がある。

交渉単位数 69単組	賃上げ			一時金		
	額/円	率/%	妥結単組数	妥結月数	平均額/円	妥結単組数
実績	9,003	3.69	64	2.07	634,510	44
昨年最終	5,791	2.25		1.99	635,788	
比較	3,212	1.44		0.08	-1,278	



**\*\*おしらせ\*\***

**2023年・労働条件調査・賃金全数調査を展開中です。全単組・支部のご協力をお願いします！**

JAM甲信は、4月15日（土）に岡谷市のライフプラザマリオを主会場に、「男女参画セミナー」を開催し、対面とWebの併用にて34単組96名に連合山梨・長野の7名、書記局の5名が加わり、女性23名を含む計109名が参加した。

今回は、連合の芳野友子会長に「ジェンダー平等・多様性の推進をすべての運動の中心に」と題し講演を頂いた。

芳野氏はジェンダー平等について日本の置かれている現状や課題について話され、男女平等参画に

は男女共にアンコンシャスバイアスの払拭が必要であることを説いた他、「議会や会社、労働組合における意思決定の場に女性の参画目標30%を掲げている。実現するまでは大変かもしれないが、役員への就任要請があった場合は「ノー」と言わずに奮闘頂きたい」と女性にエールを送った。

参加者からは「国、企業、個人の考え、価値観を変えていかなければ女性が活躍できる環境は作れないと思った」「女性の悩みを理解し吸い上げられるように女性役員比率三割を目指したい」などの声が寄せられた。



ジェンダー平等の課題を説く芳野会長



男女平等参画について問う参加者

JAM甲信は、4年ぶりに国会見学及び友好国会議員の皆さんとの懇談会を、4月21日（金）に参議院議員会館にて開催した。懇談会は、JAM甲信の役職員26名、政治連盟会員16名、計42名の参加に加え準組織内国会議員の村田享子参議院議員、山梨県の中島克仁衆議院議員、長野県の神津たけし衆議院議員、杉尾秀哉参議院議員、羽田次郎参議院議員に参加を頂き開催となった。

冒頭で村田享子参議院議員からご挨拶の後、高騰する電力料金の負担軽減について質問をされた経済産業委員会や予算委員会などの活動報告を頂いた。以降、山梨・長野の友好国会議員の皆さんからもご挨拶と活動報告を頂いた。

意見交換では、参加者より「価格転嫁において人件費の価格転嫁も容易にできる様に法的なバックアップをお願いしたい」「カーボンニュートラルを進める中小に対する支援策の強化をお願いしたい」「将来に渡って実行力のある子育て支援策を進め、

子育てしやすい環境を構築して欲しい」「遅れている日本のジェンダー平等に関する法整備を進めてほしい」など多岐に渡る切実な声が届けられた。その意見に関係する委員会等に所属する各議員より返答頂き、予定した90分間では足りないほどの活発な意見交換がされた。



(左から) 懇談会に参加した村田享子参議院議員、杉尾秀哉参議院議員、中島克仁衆議院議員

JAM甲信は、男女共同参画委員会が主催する「女性組合員の集い」を、2023年4月から7月の間に構成単組・支部の女性組合員の皆さんを対象にして、地区協毎に開催した。

最初に、「ジェンダー平等の社会を目指して」と題して基調提起を行ない、講師は男女共同参画委員会の池田委員長、小尾・川手副委員長、或いは書記局の櫻井書記長、中島職員が務めた。講師は、「ジェンダー平等を実現するには、第一歩として『男女平等』を実現する必要がある」「女性活躍推進において、クリティカル・マス（普及率が跳ね上がる境界線となる数値）の30%を意識しよう」「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の低減が重要である」と説いた。

その後、基調提起をベースに、男女の賃金格差や昇格の差などの賃金について、男女平等参画に向けてなどをテーマに、フリーに意見交換した。意見交換では「それぞれの職場環境や企業の状況から男性に業務が集中するケースがあり、業務に多く携わる

分、男性の出世が早い」「性別に関わらず昇格したい人、昇進を希望しない人もいる」「若者の離職が目立つので誰でも働きやすい職場にしていきたい」などの意見が出された。また開催後のアンケートからは、「ジェンダー平等について改めて考えることが出来て良かった」「女性が職場に対する思いや考え方が共感でき安心できた」などの声が寄せられた。



職場の男女平等について意見交換する参加者（諏訪）

JAM甲信・青年女性協議会は、2023年4月から6月の間で各地区協の青年女性協議会が主催する政策制度セミナー&イベントを4年ぶりに全地区で対面開催した。

前半のセミナーでは小林組織部長を講師とし、「組織内国会議員の必要性」と題して、基調講演を行なった。講演では2022年7月の参議院選挙で当選を果たした村田享子参議院議員（以下、村田議員と表記）の活動実績に触れ、JAMの組織内議員や準組織内議員であればJAMの課題を最優先に取り組んでもらえることから、組織内議員は必要であると説いた。また、参議院選挙後に実施されたアンケート結果から、若年層は政治活動に取り組む必要性を感じると共に参加意欲がある一方で、投票率は低調であると問題提起を行なった。

講演後には、若年層が政治に関心を持つにはどうしたらいいか？村田議員に要望したいことの2つのテーマでグループに分かれて意見交換を行なった。

参加者からは「今まではあまり関心がなかったが、政治に関心を持って自分の意見を反映させたい」「村田議員が私たちの意見を国会で発言していることが理解できた」「他の労組の人達とも意見交換しながら交流出来て良かった」などの意見・感想があった。



「政治に関心を持つには」を報告する参加者（飯田）

JAM甲信は、6月16日（金）に岡谷市のライフプラザマリオを主会場に「第15回安全衛生交流集会」を開催し、対面とWebの併用にて32単組・支部の47名と書記局の3名が加わり計50名が参加したのと合わせて、昨年引き続き使用者側にも声掛けを行ない、3社7名の方にWebにて参加を頂いた。例年は工場見学とグループディスカッションを実施



安全に取り組む意味を説く辻講師

する1泊2日の研修としているが、今年度も講演会のみを開催することとした。

講師に(株)辻安全サービスセンター代表取締役の辻太朗氏を招き、『『ホンネ』と『タテマエ』の中で本当の安全を作る』と題して講演を頂いた。

辻氏は、「安全に絶対はない、危険は絶対ある。目的を失った安全は「やらされ安全」となり、本当の安全ではない。安全に取り組む意味と価値を再認識して作業に臨むことが重要である」と説いた。

また後半では、安全衛生標語とイラストの審査結果が報告され、標語部門で入選されたシチズン労組ミヨタ支部の山崎秀之さん、イラスト部門で佳作となったNTN労組長野支部の松原宏明さん（当日欠席）に賞状と副賞が手渡された。

参加者からは、「実例も交えた講演で、非常に分かりやすかった」「身近に危険があるということ、自分の基準だけで終わらせないことが大事であると分かった」などの感想があった。

JAM甲信は、ステップアップセミナーを6月24日から25日に富士見町のジュネス八ヶ岳で4年ぶりに開催し、青年女性協幹事を含めて54名が参加した。

10チームの編成で初日は、スポーツ交流として「ふらばーるバレー」を行なった。初対面の組合員ばかりだが、声を出し合い、不規則に弾むボールを追いかけた。続いて夕食交流では恒例のBBQを楽しみながら、更に交流を深めた。



声を掛け合ってスパイクを打つ!!



非公式ながら2m25cmで優勝

2日目の体験型研修は限られた条件下でいかに高く積み上げられるかを競う「マシュマロチャレンジ」と、紙を使って高いタワーを立てる「ペーパータワー」を行なった。色々なアイデアが出され、ペーパータワーでは制限時間をオーバーしたものの、世界記録の2m23cmを上回るタワーを立てたチームも現れた。参加者からは「楽しく学べた」「他単組の参加者とも交流も深められて良かった」などの感想があった。